



〈現地〉から考える シリアの現在

フォトグラファー 小松由佳講演会



小松由佳

1982年秋田県生まれ。ドキュメンタリーフォトグラファー。高校在学中から登山に魅せられ、国内外の山を登る。2006年、“世界で最も困難な山”と称される世界第2の高峰K2(8611m / パキスタン)に日本人女性として初めて登頂。植村直己冒険賞受賞(2006年)。

次第に風土に生きる人間の暮らしに惹かれ、草原や沙漠を旅しながらフォトグラファーを志す。2008年よりシリアを撮影。2011年からのシリア内戦では人々の境遇の変化を目撃、シリア内戦・難民の取材を始める。

著書に『人間の土地へ』(集英社インターナショナル/2021年9月)。2021年、山本美香記念国際ジャーナリスト賞受賞。シリア人の夫と二人の子供と東京都八王子市在住。公益社団法人日本写真家協会会員。



ナジブ・エルカシュ

1973年シリア生まれ。バイルートアメリカン大学卒業、ロンドンフィルムアカデミーで映画制作を学び1997年に来日。東京大学大学院、名古屋大学大学院にて映画理論を研究。制作会社リサー・メディアの代表として1998年から日本や北東アジアを取材し、ドバイ・テレビなど多数のメディアで取材を配信。そのほか、日本のメディアやアラブ映画など文化事業にも多く関わっている。



著書『人間の土地へ』などで知られるフォトグラファー小松由佳氏は今夏3か月間にわたり、シリア・トルコ国境レインハルならびにシリア国内のダマスカスやホムス、パルミラを取材しました。

「祖国」に帰りたくても帰れない人々、あるいは「祖国」に残りながらも完全に自由を奪われた人々の声と姿を、現地取材をもとに報告していただきます。その報告を踏まえ、日本在住のシリア人ジャーナリストであるナジブ・エルカシュ氏を交えてディスカッションを行います。

日時：11月26日(土) 15:00-17:00 (14:40開場)

場所：亜細亜大学武蔵野キャンパス 2号館200教室

<https://www.asia-u.ac.jp/information/access/>

(JR中央線「武蔵境」駅より徒歩10分)

入場無料・事前登録不要

講師：小松由佳 (フォトグラファー)

コメンテーター：ナジブ・エルカシュ (日本在住シリア人ジャーナリスト)

司会進行：岡崎弘樹 (亜細亜大学国際関係学部)

主催：科研費若手研究「近現代アラブ思想・文学における「共存」構想とその実践(22K12988)」(研究代表：岡崎弘樹)

共催：科研費基盤研究(A)「トランスナショナル時代の人間と「祖国」の関係性をめぐる人文学的、領域横断的研究(20H00006)」(研究代表：岡真理)

科研費基盤研究(A)「空間・暴力・共振性から見た中東の路上抗議運動とネイション再考：アジア、米との比較(21H04387)」(研究代表：酒井啓子)